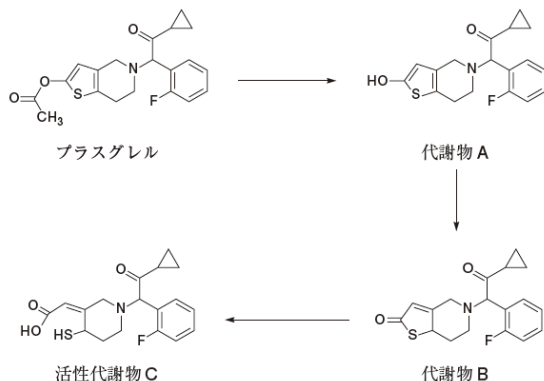


104-208

問題文



1. プラスグレルはチエノピリジン系医薬品である。
2. プラスグレルから代謝物Aへの変換にはプロテアーゼの作用が必須である。
3. 代謝物Aと代謝物Bとは互変異性体の関係にある。
4. 代謝物Bにはジアステレオマーが存在する。
5. 活性代謝物Cは血小板の標的タンパク質と共有結合する。

解答

問208：2, 3問209：2

解説

問208

選択肢 1 ですが

手術前に休薬が必要か、という問題ですが、PCI は出血リスクが低いため、休薬の必要はないと考えられます。また、ステント留置により血栓リスクがあるため、抗血栓薬の血中濃度が保たれている方がよいと考えられます。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は妥当な記述です。

増量の必要は特になく考えられます。

選択肢 3 は妥当な記述です。

ステント留置による血栓リスクがあるため、抗血栓薬服用を継続します。

選択肢 4,5 ですが

両方の服用を継続します。よって、選択肢 4,5 は誤りです。

以上より、問208 の正解は 2,3 です。

問209

選択肢 1 は妥当な記述です。

選択肢 2 ですが

プラスグレルから、代謝物 A は「エステル加水分解」です。従って、エステラーゼと

考えられます。プロテアーゼではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ~ 5 は妥当な記述です。

ケト-エノール互変異性です。

不斉炭素 2 個あるため、RRとRSのようなジアステレオマーが存在すると考えられます。

血小板表面の P2Y₁₂ 受容体に作用します。

以上より、問209 の正解は 2 です。

類題